

平成24年8月(2012年) No.560

## OMC映像フェスティバル10月7日(日曜) プログラム編成決まる

恒例のOMC映像フェスティバルは、10月第1日曜日、7日に大阪市中央会館にて開催されますが、このほど幹事会で出品作が検討され、次のようなプログラムが編成されました。昨年8月の例会作品から今年7月例会までの作品と撮影会コンテスト作品を含め、総数178本の作品から、上映時間を計算しながら次の15作品を選びました。今年も力作が揃いました。なかには採用したい作品もありましたが時間の割り振り上、入らなかった作品もあり残念でした。

### ■プログラム(全作品ハイビジョン)

①鞍馬霊水探訪10分・森口吉正、②沙沙貴まつり大松明奉納12分・宮崎紀代子、③星祭節分会13分・吉岡貞夫、④ベルリンの壁6分・山本正夢、⑤オシドリ in 大阪12分・進藤信男、⑥おたいまつ炎の舞5分・高瀬辰雄、⑦奥能登・冬の風物詩14分・河合源七郎、⑧長刀鉾解体11分・前田茂夫(休憩)、⑨どろんこ祭13分・紙本勝、⑩京都東山花灯路13分・上田吉巳、⑪雨のよさこい7分・江村一郎、⑫映像と共に半世紀8分・有村博、⑬紫縁起8分・関剛、⑭家族で受け継ぐ無形文化財19分・黒田敏彦、⑮妻の誕生日13分・合原一夫(以上15作品、敬称略)

### ■出品作品は8月例会にご持参を

今年は、すべての作品をブルーレイにして上映しますので、その準備のため、作品を8月例会にお持ちください。また、出品料(10分まで8千円1分増すごとに千円アップ)も例会日に会計へお支払いをお願いします。

■大阪アマチュア映像祭は11月4日(日曜日)13時より、大阪市立中央図書館にて開催されます。

### 8月例会のお知らせ

8月例会は第4土曜日25日午後6時より、難波市民学習センター(JR難波OCATビル4階)にて開催します。残暑厳しい季節ですが、会場は冷房が効いていますので、何か上衣のご持参をお勧めします。

月1回の楽しい例会にどうぞお越しください。作品の方もよろしく。

## ■懐かしの8ミリ映画を楽しむ会9月2日

難波市民学習センター（JR難波OCAビル4F）第2研修室にて、10時開場、10時30分上映。皆様のお越しをお待ちしております。プログラムは次の通りです。

### ・テレシネにて上映

①おくにさん（故川畑健二）、②下町の詩（故児島範昭）、③消えたナベヅル（河口禮志）

### ・8ミリフィルムにて上映

④淀のほとり（伊東房幸）シネマスコープにて上映、⑤保津川下り（柴田六雄）、⑥きき耳地藏さん（上田孝）、⑦食人種の末裔ダニ族（上総修一郎）

### テレシネにて上映

⑧ノスタルジア（江村一郎）、この道一途（前田茂夫）、⑩レッツゴーママ（田中弘司）、⑪舟に生きる（上田吉巳）、⑫おもろい連中（柴辻英一）、⑬終極（関剛）、⑭歌謡曲8ミリコンテスト連続入賞作品集（有村博）⑮ああ消えゆく万国博（合原一夫）

## ■予告

9月例会は第4土曜日が祭日で開場が閉館ですので、第5土曜29日18時よりです。

## 7月例会のレポート

天神祭が終って大阪が一番暑い28日に例会開催。今月の司会は進藤氏、書記、前田氏、映写担当、江村、河合の両氏、受付兼照明は、宮井、宮崎の両氏の担当で進行。今月は装置が不調で上映できず原因究明や何やかやで遅れ、最後は直結接続してやっと直り、上映は40分遅れて開始した。原因はセレクターが不調だったとのこと。そのために出品作品のうち不在出品の井上作品「麗江古城世界遺産」及びテープ不良で途中で部分的に画が出なくなる宮崎作品「大原女装束時代行列」が来月に持ち越された。8月例会にて優先上映されます。

## ◆出席者

有村、江村、上田、岡本、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、鉄具、華岡、前田、宮井、宮崎、森下、山本、吉岡、渡辺（敬称略）の20氏と14本の出品がありました。

## ◆上映作品（今月の記録と講評担当：前田世話役です）

### 1. 映像と共に半世紀

有村 博さん 8分07秒

昨年6月に出品された作品を再編集し、作り直しました。自分の50年の映像史を8分で纏めましたと持参されました。作品本編は昭和37年のW8ヤシカカメラから始まりました。昭和46年のシングル8コマ撮りアニメ、昭和51年のスーパー8の近江八幡西の湖のヨシ焼きの迫力ある映像、VHS、S-VHSによる特殊撮影へと続きます。さらにHi8によるハワイ旅行、DV映像、HDVによる綺麗なネイチャー映像、そして最終はAVCHDの60P映像へと時代を追うごとに映像が綺麗になって来たのがよく判ります。「私の映像経歴も50年、この素晴らしい趣味で人生が幸せになりました。感謝しています。」と結ばれました。50年の趣味の歴史を8分で纏められたのはさぞご苦労があったと思います。素晴らしい作品でした。同じ趣味を持つものとして共感を呼びました。

### 2. 中越国境に遊ぶ

山本正夢さん 9分20秒

中国とベトナム国境にある徳天瀑布を訪ねた旅の記録です。googleで調べたら、大新県にある大きな滝とあります。徳天瀑布という滝だそうで、この滝は帰春河という河の上流に位置し、中国とベトナムの両方にまたがっています。高さ80メートル・幅100メートル。複数の国にまたがる滝としては、アジアで1位、世界で2位の規模を誇ります。水量が非常に豊富な大きな滝です。瀑布と名づけられたようにその大きさに驚かされました。船に乗って瀑布に接近していきますが、小さなイカダに物売りでしょうか、二人が乗って近づいてきたのは驚きでした。さらにゴムボートに乗って古龍山溪流のラフティングへと続きます。この溪流下りも迫力満点で、途中のボートで下れない箇所を歩いて通ります。垂直の崖に作られた歩道を縫うようにして、観光客とボートを担いだ船頭が歩きます。桂林らしい風景と偶然で出会った葬式情景もありました。何とも大迫力のある作品でした。瀑布とラフティングのシーンはBGMを消

して SE だけで見せたほうが良かったと思います。

### 3. 春季三宝荒神大祭

吉岡貞夫さん 12分55秒

阪急沿線の清荒神の春の三宝荒神大祭を撮ってられました。清荒神 清澄寺は神仏混合のお寺だそうです。真言宗十八本山の内のお寺です。「真言三宝宗 清荒神 清澄寺」というそうです。4月28日に行われた百味練供養がお寺一番の大切な行事のようです。ホラ貝を吹く山伏を先頭に雅楽の演奏に続いて大勢の独身女性の行列が続きます。手には各種の野菜や果物を持ち、その後を僧侶が続いて三宝荒神の御前に奉納して世界平和と五穀豊穡を祈願します。三宝荒神の後には本堂の大日如来へとお練行事が続きます。燦燦と降り注ぐ春の陽光を受けて行列一行はまばゆく輝きます。神社仏閣の行事の撮影にいつも見事な腕を発揮される作者の実力が存分に発揮されています。手際よく纏められた記録作品です。

### 4. 我が家のバラ

河合源七郎さん 5分38秒

一般的名アマチュア AVCHD ビデオのクロマ圧縮方式は 4.1.1 だそうです。これを 4.2.2 に拡大すると、色彩情報が格段に増加しより綺麗に録画できるそうです。業務用は 4.2.2 だそうです、作者は 4.2.2 対応のカメラを購入し色彩情報が 4.1.1 の AVCHD と比べてどうだろうかと自宅のバラ園を撮って持参されました。AVCHD より白色と緑色の色彩情報はよく出ているのでは、と作者の話です。確かに普通は白い花は飛びやすく表現が難しいのですが、微妙か白の階調が記録されているように思えました。MXF ファイルとして取り込んで編集するそうで、ビットレートが 50Mbps と AVCHD の最高速 24Mbps の 2 倍の要領になり、扱うには高速 CPU、高速メモリ、高速 HDD が必要になりハードルが高そうです。

### 5. コウノトリの故郷出石

進藤信男さん 11分00秒

2005年9月に人口飼育をしたコウノトリを自然界に放鳥してから、ずっと撮り続けておられる進藤さんですが、今回は出石の町の歴史と絡めて作品にされました。

人間が自然界を破壊して幾つもの動植物を絶滅させてしまった反省から、再び大空を舞って欲しいと願ってコウノトリとトキが放鳥され、順調に自然復帰しているようです。この難しいテーマに作者は何度も挑戦され、これまで何本もの作品を作られてきました。

「コウノトリも住める但馬を！」のスローガンの下で大変な努力を重ねて成功裏に進んでおり喜ばしいことです。この作品では出石においてコウノトリにまつわる昔話と古い写真、現代の町の様子を絡ませてストーリーを展開していきます。新羅の王子、天日槍が出石に渡ってきて朝鮮の文化を伝えたという神話の時代から始まって、戦国時代、江戸時代、明治初期の歴史へと出石の歴史が綴られて行きます。大変素晴らしい出石紀行作品です。「これらの全ては人々と自然そしてその地域とのかかわりの中から始まってきているものではないだろうか」という言葉で結んでいます。

これはこれで立派な作品ですが、もっとコウノトリに拘って地元農民のコウノトリへの愛情、米づくり、無農薬、有機肥料など、コウノトリが住んでいることによる地元の町興しなど自然と人との調和をテーマに纏めれば丹波篠山コンが視野に入るのではないかと思います。

### 6. 廃墟

紙本 勝さん 8分00秒

友ヶ島（和歌山）の砲台跡廃墟から始まって、犬島（岡山県）の銅精錬所跡廃墟、大久野島（広島）のドクガス製造工場廃墟など近代史の負の遺産を写してられました。廃墟はかつて多くの人が働いていたということが映像からよく判り、それだけで人の胸にグサッと来るものがあります。それが戦争に関わるものであればなお更です。この作品は紙本作品としては大変珍しいノンナレ作品です。映像が過去の悲しい出来事を秘めているだけに BGM の選曲が大切ですが、BGM はよく合っていたと思います。なかなか考えさせられる作品です。撮影テクニックとしてもっとスーム、超アップを多用すると訴える力が増したと思います。

### 7. エンガディン地方

**華岡 汪さん 8分32秒**

このところスイス旅行の作品を発表される作者のスイス作品です。有名なサン・モリッツ周辺のツォーツ、シルス、マローヤ、など聞いたこともない小さな町の風景が続きますが、さすがにスイスの町は何処へ行っても綺麗な風景です。高い山、緑の牧場、青い湖、どれも撮っても綺麗な絵になる風景です。しかし、一番感心するのはヨーロッパは何処でも電線を地下に埋めていることです。この社会資本の差は大きいと思います。

**8. 奥嵯峨二寺**

**鉄具嘉夫さん 7分55秒**

奥嵯峨にある祇王寺と滝口寺を撮ってこられました。渡月橋の俯瞰から始まって竹林に行く人力車等嵯峨野の風情を描いています。両方とも平家ゆかりの寺ですが、悲しい物語が胸を打ちます。ご自分のナレーションと声の職人のコンピューター音声との掛け合いでストーリーを進行します。新しい試みですが、合成音声をもっと品質向上して欲しいものと思います。女性の声の高音部が出ないので詰まったような感じです。早くより人間に近い合成音声が出て欲しいですね。

**9. 甦る大船鉦**

**高瀬辰雄さん 11分30秒**

山鉦巡行の最後尾を飾っていた大船鉦は1864年の禁門の変の大火で消失したそうです。この大船鉦を復活しようという地元住民の取り組みを追いかけています。大船鉦は今の船鉦より一回り大きいそうです。完成すれば立派な大船鉦になるでしょう。この作品は、ご神体を収めた唐櫃巡行まで終りますが、今後の進展と作品完成が大いに期待される作品です。鉦の完成は平成24年だそうですが、記録し続ければ素晴らしいドキュメンタリー作品になることは間違いありません。頑張って記録を続けてください。

**10. 太鼓台2町**

**宮井 健さん 3分00秒**

かつて小3から高3まで岸和田にいましたが、子供の頃岸和田はダンジリ貝塚は太鼓台と聞いてきました。しかし貝塚の太鼓台を一度も見たことが無く今回初めて見ま

した。太鼓台も小さく、観客は少なく同じ貝塚のダンジリ祭に比べて何もかもさびしく感じました。祭はその地方地方に根付いた地域の行事で、規模が小さく観客が少なくても太鼓台を担いでいる若者が多く元気があって祭らしい雰囲気を感じられ楽しく拝見しました。同じ貝塚に、激しく有名なダンジリ祭があると、太鼓台はあまり振り向かれないようで気の毒に思いました。

**11. さようなら余部**

**江村一郎さん 6分10秒**

この作品はまさに江村流の極致とも云うべき編集テクニックでしょうか。小生もほぼ同じ情景を抑えています。とてもこのような意表を突く編集を出来ないです。夏から突然冬へ、又夏へと、又冬へ、又夏祭りへと、旧橋から新橋へ、新橋からまた旧橋へと、時間を超越したカットつなぎにはいつも驚かされます。突然のアップカット、時空を超えた編集テクニック、江村さんだから出来ても他の人が真似たら違和感を招いて失敗するでしょうね。

**12. 妻の誕生日**

**合原一夫さん 12分38秒**

作者はこれまでも奥さんと二人だけの旅行記や闘病記録、いろいろなホームドラマを発表されてこられました。この作品はその数ある作品群の中で最高峰ともいえるべき作品であろうと思います。二人で奥さんの76歳の誕生日を祝い二人の語らひにあわせて、過去の出来事を重ね合わせて生きます。過去三度も大病を患い自分が今生きているのが信じられないという話は何のいやみもなくさらっと語られるのが心を打ちます。奥さんの手芸品づくりの腕は本当に大したもの、昭和50年代前半に松茸の人工栽培を夢見るドラマタッチの撮影会を合原さんの企画で行ったことがありますが、その折撮影に使った松茸を奥さんが石膏と和紙で作られました。その出来映えが非常に素晴らしく本物のソックリだったことを思い出しました。尾瀬旅行の思い出、ケニヤ、セイシェル、ポルトガル、中国等海外旅行で思い出を積み重ねて来ました。仲睦まじい老夫婦の愛情がよく出ていた素晴らしい作品でした。